

## 府立松原高等学校 「学校運営協議会」 報告書（第1回）

日 時	令和3年7月10日（土） 14:30～16:30																		
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等															
	房本 晃	（福）パオバブ福祉会理事	島津 邦廣	校長															
	菊地 栄治	早稲田大学教授	藤原 和子	教頭															
	森岡 次郎	大阪府立大学准教授	木村 悠	首席・人権教育主担															
	林 茂樹	摂南大学特任準教授	伊藤 あゆ	首席・2学年代表															
	安原 陽子	本校PTA会長	山口 裕子	人権教育主担															
			中川 泰輔	人権教育主担															
	教職員等																		
田中 麻友（1学年） 河合 美沙希（1学年） 麦田 伸一（教務代表）																			
主なテーマ	今年度の方針と計画																		
協議内容の概略	<p>① 今年度の重点項目・パフォーマンスウィーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営計画及び評価（校長）</li> <li>・深い学びプロジェクト、カリキュラムマネジメントの経過（木村首席、中川教諭）</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">カリキュラムデザイン</th> <th style="width: 50%;">授業改善</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018年</td> <td>PJ 発足</td> <td>主体的な学び、パフォーマンス評価 逆向き設計</td> </tr> <tr> <td>2019年</td> <td>PJ セミコア 教科の目標、必修の枠設定</td> <td>生徒が動く授業、協同学習</td> </tr> <tr> <td>2020年</td> <td>あったらいいな、こんな講座 30 講座を提案</td> <td>指導と評価の一体、UD 化学</td> </tr> <tr> <td>2021年</td> <td>選択科目の枠、内容決定</td> <td>パフォーマンスウィーク実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒の思考・判断・表現力が見える化へ。難点は思考・判断していても表現しないと評価ができないことと、すべてが評価でききるか、ということ。</p> <p>② コロナ禍における学校の役割（菊地委員）</p> <p>生きる足場が不確かな後期近代。主体的、と言いつつ自己責任論による個人化や分断による他者化によって、能力主義神話を強化していないか。能力は、持つ／持たないで測るものではない。そこで、「コモン（幸せになるためのお約束事）」をはぐくむ学校について考えている。他者と出合い対話しつつ互いに生成される、より豊かな関係性（＝足場を支えるもの）とそれを促す諸資源（＝足場を創るもの）。</p>					カリキュラムデザイン	授業改善	2018年	PJ 発足	主体的な学び、パフォーマンス評価 逆向き設計	2019年	PJ セミコア 教科の目標、必修の枠設定	生徒が動く授業、協同学習	2020年	あったらいいな、こんな講座 30 講座を提案	指導と評価の一体、UD 化学	2021年	選択科目の枠、内容決定	パフォーマンスウィーク実施
	カリキュラムデザイン	授業改善																	
2018年	PJ 発足	主体的な学び、パフォーマンス評価 逆向き設計																	
2019年	PJ セミコア 教科の目標、必修の枠設定	生徒が動く授業、協同学習																	
2020年	あったらいいな、こんな講座 30 講座を提案	指導と評価の一体、UD 化学																	
2021年	選択科目の枠、内容決定	パフォーマンスウィーク実施																	

提言内容・ 改善方策	<ul style="list-style-type: none"><li>・「指導と評価の一体」は長年のテーマ。なぜ、これまで実現しなかったか。生徒の生活実態と乖離している抽象的な学校をやっているから。子どもの生活実態を忘れないことが必要。</li><li>・「指導と評価の一体化」は、教師にかえしていく一つの指標。</li><li>・ここでは生徒と先生が同じ時間を共有しており、大きな話ではなく身体と時間を使っている。これを拡げたいが、流通すると身体性を失うのでは。大学のレポートも100点でつけるためにループリックを使用するが、人ではなく提出したものへの評価、ということ。学ぶこと自体が役に立つ、楽しいことだ、と伝えられたら。</li><li>・観点別評価の基準が出されたが現場にとっては困難がある。システムを作ればうまくいくと思っていたら転倒する。結局、総括的評価だけでいい、と言っている改訂では。生徒をきっちり見ないといけない。</li><li>・パフォーマンス評価は、これからの人生の中で役に立つ、良い取り組み。社会人になっても皆で何か考える経験は生きる。</li></ul>
---------------	--